

立川水系立川 総合流域防災事業

伊万里市

(事業採択後10年が経過)



位置図



事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

平成18年9月洪水

浸水戸数 58 戸

浸水面積 30 ha

○浸水被害の軽減を図る

- ・流路是正、狭窄部解消、
流下阻害となる構造物の改築を実施
- ・治水安全度の向上を図る。

計画流量 $95\text{m}^3/\text{s}$

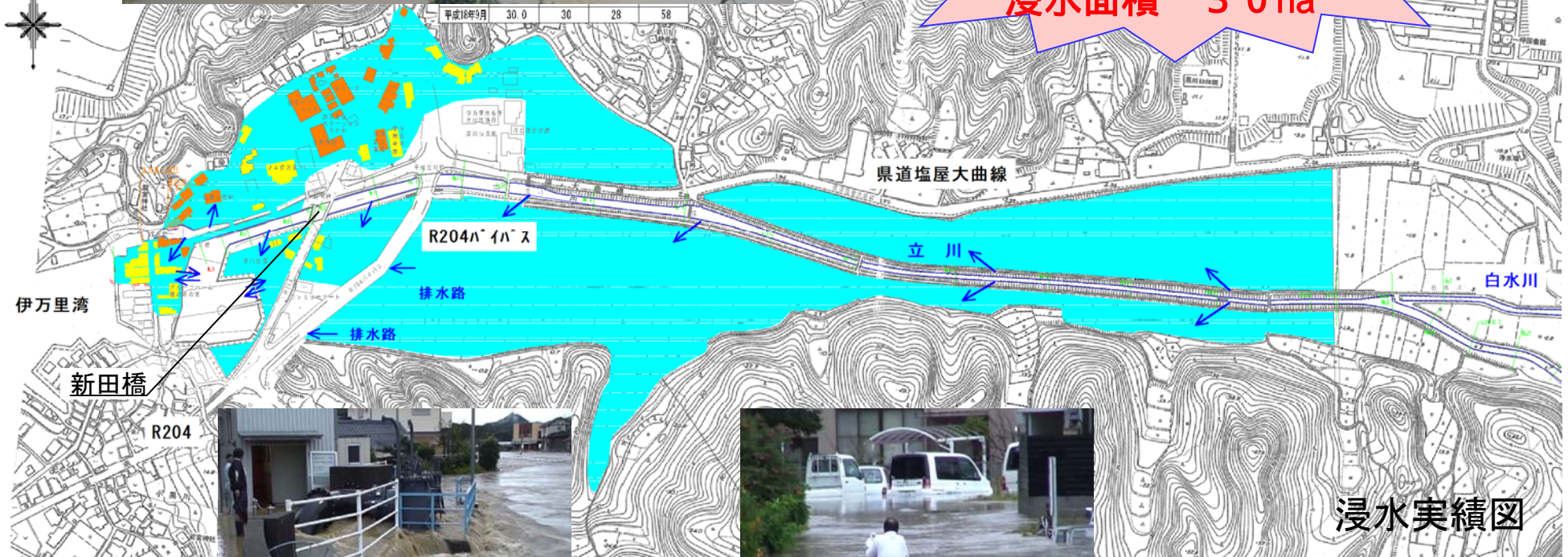
計画治水安全度 1/10

平成18年9月(台風13号) 立川

最大日雨量285mm 時間最大雨量99mm



床上浸水	30戸
床下浸水	28戸
浸水面積	30ha

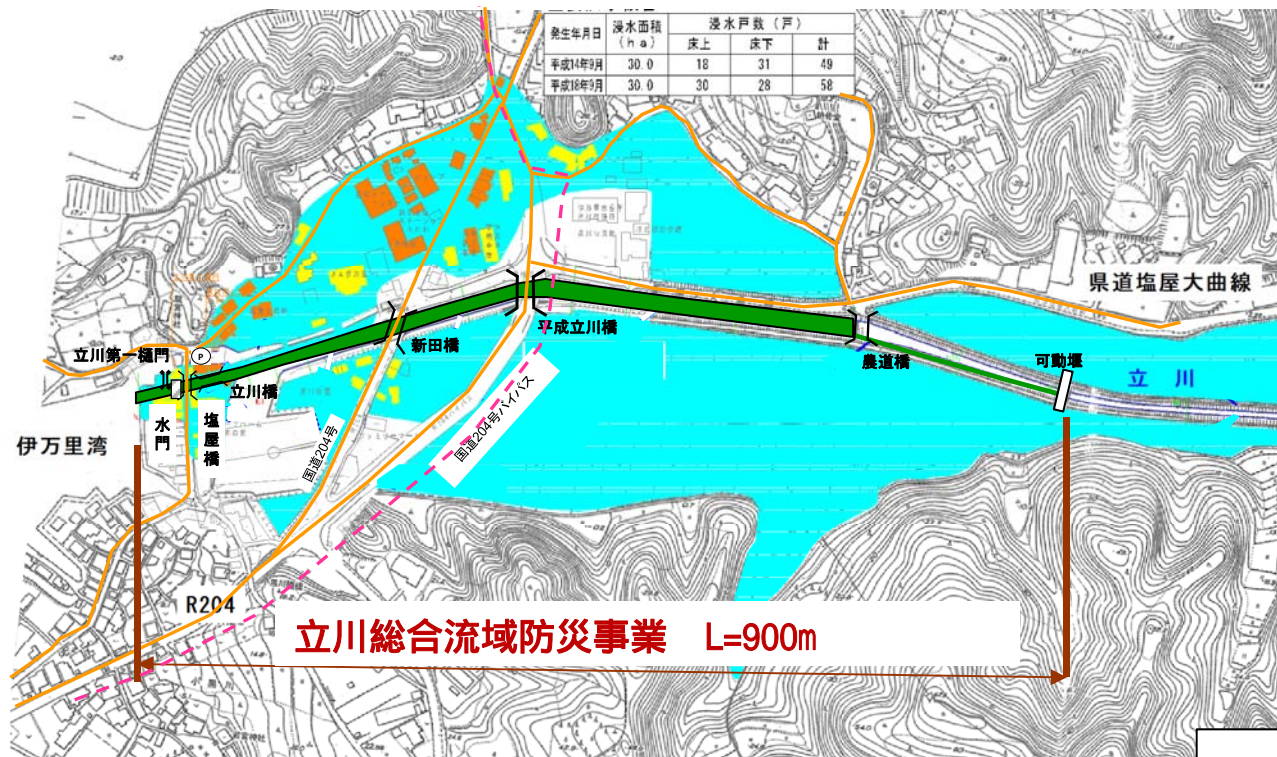


立川総合流域防災事業

着手年：平成22年度
事業地：伊万里市

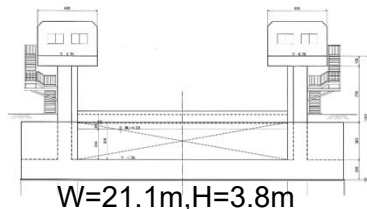
立川総合流域防災事業は、立川河口から上流900m区間に対して、計画治水安全度1/10を確保する河川改修事業であり、令和7年完了を目標としています。

概略平面図

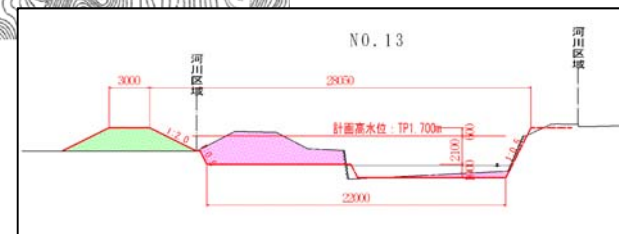


○事業概要

- ・全体事業費 2,670百万円
- ・事業期間 H22～R7
- ・改修延長 900m
- ・計画流量 95m³/s
- ・計画治水安全度 1/10
- ・掘削・築堤・護岸、橋梁2基、樋管1基、水門1基
- ・費用対効果 1.81



都市計画区域



黒線：現況断面
赤線：計画断面

事業進捗状況

立川の事業進捗状況は、河口部の水門および新田橋下流の河道拡幅が完了している。



➤ 改修状況

- ・水門設置完了
- ・新田橋下流の河道拡幅が完了

➤ R1年度末事業進捗率

- ・57.3% (事業費ベース)
- ・年平均進捗率 5.7%

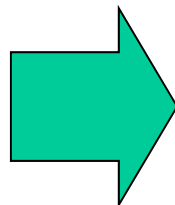
総合流域防災事業 L=900m

— 完了区間

— 未完了区間

改修前後の状況

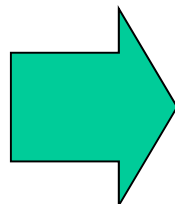
河口部の立川水門



改修前

改修後

新田橋下流



事業を巡る社会情勢等の変化

【地域の状況】

- ・下流沿川には家屋が密集し、国道204号バイパス完成後、商業施設が進出するなど、今後も発展が見込まれる。

費用対効果の要因の変化

総費用額C: 治水施設の整備及び維持管理に要する費用
(建設費、維持管理費(※事業完了後50年間))

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる総便益額(被害軽減額)

- ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所資産、農漁家資産) 2,202百万円
- ・農作物被害(水稻、畑作物) 28百万円
- ・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁、農地等) 2,748百万円
- ・間接被害(事業所の営業停止被害、応急対策被害等) 460百万円
- ・残存価値 40百万円

総費用C: 3,030百万円

総便益B: 5,478百万円

⇒費用対効果

$$B/C = 5,478 / 3,030 = 1.81$$

コスト縮減や代替案等の可能性

【コスト縮減】

- ・掘削土を堤防盛土や埋戻土にするなど建設副産物を有効利用する。
- ・護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。

【代替案の検討】

- ・特になし

対応方針(事業課案)

地域の状況から、事業の必要性は一層高まっており、地域住民の安全・安心な暮らしに寄与するため、事業を継続したい。